

グリーントピックス

No.66

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 林業試験場

北海道産クランベリー（ツルコケモモ）の栽培がはじまりました

クランベリー（英名：Cranberry、学名：*Vaccinium macrocarpon*）は米国原産のツツジ科スノキ属の植物です。秋に収穫する果実はブルーベリーやラズベリーと並ぶ流通量があり、世界の主要ベリーの一つです。作付面積はアメリカとカナダで世界の約80%を占めています（FAO統計2020年）。栽培の歴史は米国東部のマサチューセッツ州東端ではじまり、約200年の歴史があります。

北海道にもクランベリーの仲間が自生しています。和名はツルコケモモ（学名：*V. oxycoccos*）、英名はスモールクランベリー（Small Cranberry）。英名のとおり、果実は小ぶりですが、味と風味は米国産クランベリーに引けを取りません。しかしながら、北海道産クランベリーには、果実の収穫を目的とする営利栽培の歴史がありません。そこで、林業試験場では北海道産クランベリーをハスカップに続く北海道産のベリーと捉えて、①苗木の増殖技術の開発、②育苗技術の開発、③栽培技術の開発、④果実生産の実証に取り組みました。

この取り組みから、①野生の個体から1cmほどの長さで採取した茎を材料にすることで、培養ビンの中で大量のクローンを増殖できるようになりました（写真-1）。②培養ビンの中で増殖させたクローンを育苗トレイに植え付けて、成型苗に仕立てることができるようになりました（写真-2）。③栽培には海辺の砂浜のように有機質を含まない細かい砂を用意して、そこへ植栽すると旺盛に成長することがわかりました（写真-3、4）。④開花は、圃場に植栽した翌年から始まり、果実の生産は3年目以降に安定することがわかりました（写真-5）。現在、苗木の生産から果実の収穫に至る一連の技術を農家やファームレストランなどへ移転し、普及を進めるとともに、栽培現場から還元される情報を基に技術の改良を進めています（写真-6）。

（樹木利用G 錦織正智）



写真-1 クローン増殖



写真-2 成型苗として育苗



写真-3 砂地で露地栽培



写真-4 露地栽培から3年目



写真-5 収穫期のベリー (9月)



写真-6 技術移転先 (標津町)